わたしは徳山で生まれ育った だから、この地に誇りも愛着もある ここならではの特色を生かしながら 訪れる人を温かく迎えたい

その人たちが、実際にここでお金を落としてくれる。この地をうるおわせてくれる。とてもありがたいことです。

最初は地区のため、地区住民のためと思って整備を始めたときどんの池ですが、今はもっと広い意味で、人と人とが交流できる公園になってきたのを感じています。

わたしたち地域の人間がこれからできることは、ここに訪れた人を温かく迎え入れること。自分たちだけが楽しむのではなく、たくさんの人が触れ合う場所にしていきたいと思います。地区の人も、町内の人も、町外の人も、ここで楽しんで、感動して、喜んで、気持ちよく帰ってほしい。また来たいと思いながら帰ってほしいのです。

そのためのアイデアも、まだまだたくさんあります。トイレを整備する、駐車場を整備するといった基本的な部分はもちろんですが、もっと大きな夢もあります。公園の横を走る道路の法面一面に梅の木を植えて、いつか梅園を整備したい。そのてっぺんに展望台をつくりたい。徳山は桜の名所として定着してきた地区※❶です。今度は梅を植えて、ゆくゆくは桜と梅の2枚看板で「花のあふれる里」を実現したいと思っています。

地域住民と訪問者とが交流できる「きっかけ」もつくりたい。現在秋に1度だけ開催している物産展「ときどん市」。利便性を考慮して別の場所を借りていますが、いずれはこの公園で、定期的に楽しめる朝市にしていきたい。そこでは、地区の皆さんが自慢の野菜や山菜などを持ち寄り、訪問者に振る舞う。買ってもらう。地場産品を使った一品料理を出してもいい。住民と訪問者との触れ合いが生まれ、さらに地域が活気づくことでしょう。

ここに暮らす人々が持つ徳山への愛着。その心はきっと訪問者にも伝わるはずです。

これからの時代、地区の内外は関係なく、多くの人が交流できる場所にしていくことが、地域づくりには欠かせないと思っています。

生粋の徳山人だから思うことがある

わたしは戦時中、兵隊として半年間、ここを離れました。横浜で出兵に備えて訓練を重ねているうちに、終戦を迎えました。地元に帰ってきて思ったのは、ただ運が良かった。生き帰ってこられて本当に幸せだったということです。もう一度この地を自分の足で踏みしめることができたんですから。

帰ってきてからは、運送業や土建業の仕事をやりながら、ずっと徳山で生活しています。この土地が好きだからこそ、何かやろうと思えるし、それにみんなが付いてきてくれたから今があると思っています。

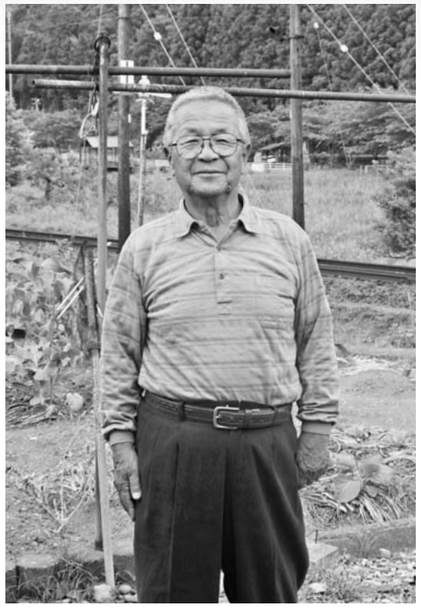
わたしはよく、「男なら地元を愛する人になれ」と若い人たちに話します。それはわたしが、ここに一番愛着を持っているからかもしれません。

わたしと同じように、ここを愛する人がいる

ある県外からの訪問者に話を聞いてみました。その人は「こんなにホタルが見られるとは思っていなかった。素晴らしいところですね」と喜んで帰っていったんです。その人は地元で買い物をしてくれたり、地元の宿を使ってくれたりしました。この地域への波及効果も、少なからずあることを知ったんです。

写真を撮りに遠くから訪れる人がたくさんいます。伝統芸能の徳山の盆踊※❷を見に来てくれる人もいます。自分が愛する徳山を、他町の、他県の人も同じように愛してくれている。これは本当に、誇りに思えることなんです。

この公園を管理していくには、日々の努力も労力も必要です。しかし一つ一つの作業は、地域内のコミュニケーションにもつながります。池の管理、炭焼き、ホタル飼育など、これから自分たち同士も、そして外の人とも交流しながら、誰からも愛される公園、誰からも愛される徳山にしていきたいと思っています。



はしもと●つとむ

徳山区長を務めていた時代に「住民憩いの場」をつくる必要性を提唱。多くの人の協力を得て公園整備を実現させた功労者。多方面に顔が利き、公園整備の際には関係機関との交渉に尽力。その指導力と温厚な人柄で徳山区を長く牽引してきた。元中川根町議会議員。平成17年町政功労者。

※❶「徳山の桜並木・桜祭り」

地区を千本の桜でいっぱいにしようという取り組みは、代々受け継がれてきた徳山区の精神。近年では、川根高校前のしだれ桜や桃沢土手のソメイヨシノが地区の名物となり、シーズンには大勢の人が押し寄せる。地域住民が主催する桜祭りは、他町・他県からも人が訪れるイベントに成長した。

※❷国指定重要無形文化財「徳山の盆踊」

町外からの来場者も多い伝統の祭り。鹿ン舞、ヒーヤイ、狂言の裏方は、各組ごと当番制で担当し、舞台を支えている。鹿ン舞、ヒーヤイの舞い手は地区の子どもたち。大人と子どもが協力して祭りをつくり上げる。異世代間の交流にも一役。

住民参加が地域の明日を創造する 他地区に見る地域愛着心

●地域に埋もれた宝物を掘り起こす

自宅に眠る宝物を発掘して持ち寄り、地域の伝統文化を振り返ろうと坂京区でコンテストが開催された。昨年は約30点の品々が集会所に集められ、住民による投票が実施された。炭を使ったアイロン、牛のわらじ、大井川を描いた絵地図などの品々を通して、地域の歴史を振り返った。住民間の交流にも。

坂京　わが家の宝物コンテスト

●田んぼを活用した新たな試み

地名区は平成19年から、新たな試みとして「案山子コンテスト」を実施している。西地名に広がる水田を活用した取り組み。案山子は区の各班ごとや、個人が製作。開催初年度の平成19年は約20体が出品され、水田脇にずらりと並べられ、地名の風物詩に。地区内外から大勢の人が訪れた。

地名　案山子コンテスト

●赤鳥居を目玉に、人が訪れる地区へ

稲荷神社に赤鳥居を並べて地区の目玉にしようと有志が集い、赤鳥居会を結成。平成19年から取り組みを始めた。地域住民が知恵を出し、協力し合い、手作りで赤鳥居を製作している。ゆくゆくは、稲荷神社の参道に赤鳥居を並べ、地区内外の人が見に訪れる稲荷神社にしたいと意気込む。

上岸　稲荷神社赤鳥居会